





▲歌川国芳「源平盛衰記 駿河国富士川合戦」江戸時代(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)

平安時代の末期、平清盛率いる平氏は天皇家の後ろ盾を得て、政権を握り、大きな影響力を持っていた。権力争いに敗れ、伊豆の蛭ヶ小島(伊豆の国市葦山)に流されていた源氏の源頼朝は、伊豆の豪族であった北条時政(北条義時・政子の父)を味方につけ、治承4年(1180)、平氏討伐のために挙兵します。

一度は平氏に敗れた頼朝ですが、その後平氏の支配に不満を持つ武士たちを従えて勢力を拡大し、鎌倉を中心に東日本を勢力下に治めました。

## 1180年 富士川の合戦

一方、平清盛は、頼朝討伐のために平維盛の軍を都(福原京)から鎌倉に派遣します。そして、当時の富士川を挟んで対陣したのです。この時、平氏は富士川西岸に、源氏は富士の加島に陣地を構えたと言われています。

合戦が始まろうとしたため、この地域の人々は、戦いに巻き込まれることを恐れて、山中に隠れたり、海に逃れたりしたとされています。ところが平氏は、夜中に行われた源氏の移動によって起きた水鳥の羽音を敵の来襲と間違えて、戦うことなく西に向かって敗走したと言います。

これが、平氏没落の大きなきっかけの一つになったとされる「富士川の合戦」ですが、この戦いに関連して、平家越や呼子坂、物見堂など、市内の各所にゆかりの深い地名が残っています。

また、市内の神社の中には、頼朝が祈願や奉納を行ったという伝承や、食糧を保管したなどの由緒を持つもの、和田町付近に陣を置いたとされる和田義盛(13人の合議制の一人)を祭るもの、富士市出身の武士である鮫島宗家を祭るものなどが存在しています。

※1 現在よりも東側の地域一帯に幾筋にも流れがあったと言われています。

※2 当時の富士川や潤井川が流れる地域一帯を指します。

平氏を滅ぼして鎌倉幕府を開き、征夷大将軍となった源頼朝は、建久4年(1193)に全国に將軍の力を示すことと、軍事訓練をかねて、富士山の裾野で大規模な巻狩(狩猟)を行いました。約20日間、大勢の武士たちがこの地に滞在し、この地域に大きな影響を与えたことが、鵜無ヶ淵や三度時、傘木といった、市内各地に残されている地名からもうかがえます。

また、この巻狩の際に、頼朝の有力な御家人(家臣)である工藤祐経が曾我十郎祐成と五郎時致の兄弟に殺害されるという事件が起こります。その原因は、兄弟の祖父であり北条義時の祖父でもある伊東祐親と工藤祐経の領地争いです。この争いのもとになり、曾我兄弟の父、河津祐泰は工藤祐経に殺されてしまったのです。



▲曾我兄弟の絵馬(曾我八幡宮蔵・富士山かぐや姫ミュージアム展示)

## 1193年 曾我兄弟の仇討ち

幼い頃から父の仇を討つ決意を固めていた兄弟は、巻狩に同行していた工藤祐経を、宿泊所となっていた富士野の神野(現在の富士宮市上井出付近)で、ついに討つことができました。しかし、兄の十郎祐成はその場で殺され、弟の五郎時致は捕えられてしまいます。捕えられたのち、頼朝の取り調べを受けた五郎時致は、兄弟の孝心と行動に心を打たれた頼朝がその命までとはならないでとおこうとしたものの、鎌倉へ護送される道中、工藤祐経の子である大房丸により、首をはねられたと伝えられています。この場所が鷹ヶ丘とされ、現在の鷹岡という名称の由来とする説があります。

また、鷹岡地区を中心に、市内には曾我兄弟を祭る曾我八幡宮、兄弟の墓所がある曾我寺(鷹岳山福泉寺)をはじめ、兄弟やその恋人たちにゆかりのある場所が多く残されています。



▲曾我兄弟の墓(曾我寺)  
左:曾我五郎時致 右:曾我十郎祐成



# 富士市ゆかりの地マップ

大河ドラマの「鎌倉殿」とは鎌倉幕府将軍のこと。初代将軍は、源頼朝。富士市にも鎌倉時代のはじまりにゆかりのある場所が多数存在します。

この機会に現地を訪れ、頼朝や北条義時、曾我兄弟たちが活躍した時代に思いを馳せてみませんか。

**問合せ** 富士山かぐや姫ミュージアム ☎21-3380 📠21-3398 📧museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

※史跡などの場所に駐車場がない場合があります。訪問の際には、近くの公的機関の駐車場や公共交通機関をご利用ください。



たきがわじんじや  
**9 滝川神社 (原田1309)**

富士川の合戦で戦勝祈願を、巻狩の際には、金の玉を奉納したと言われている。



よびこざか  
**8 呼び子坂 (宇東川西町8-18付近)**

清岩寺門前の坂のことで、源氏軍が呼び子(笛)を吹いて兵を集めた所。また、清岩寺の創建は、北条時政が富士川の辺りに建てた「専修院」を移築再建したとの説がある。



わだじんじや  
**6 和田神社 (今泉8-7付近)**

通称「義盛さん」。頼朝の家臣、和田義盛を祭る。義盛はこの辺りを守り、川に罾をしかけたという。その川は和田川と呼ばれ、付近には和田町や上和田等の地名が残る。



ひよしじんじや  
**7 日吉神社 (鮫島416付近)**

頼朝の旗揚げから従う鮫島四郎宗家を祭る。富士川の合戦では地元出身者として、道案内をしたと言われている。

## のぼり旗が目印▶

ゆかりの地PRのために、各史跡の付近に富士市オリジナルのぼり旗を設置しています。



## ◀ ロゴマークを作成しました！

ゆかりの史跡をPRするため、県内の関連する市町でロゴマークを作成しました。各市町の史跡やエピソードをモチーフにしたデザインになっています。源頼朝が弓矢を奉納し、戦勝を祈願した横割八幡宮などが市内にあることから、富士市は富士川の合戦をモチーフとしたデザインになっています。



## 鎌倉殿へのはじまり ゆかりの地をめぐるツアー

と き／3月13日(日) 9:00～12:30  
 コース／市役所(バス移動)→横割八幡宮(富士第二小学校から徒歩移動)→車窓から「平家越」見学→【散策】 鎧ヶ淵親水公園→滝川神社→竹採公園(バス移動)→富士山かぐや姫ミュージアム→市役所

※動きやすい服装で参加してください。  
 ※散策には、ボランティアガイドがつきます。  
 ※富士山かぐや姫ミュージアムでは、テーマ展「富士のふもとのかまくら時代」を見学します。

定 員／25人(応募者多数の場合、抽せん)  
 参加費／500円(バス代)

申込み／2月20日(日)までに、市ウェブサイトで電子申請するか、はがきまたはFAX・Eメールに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、〒417-8601 富士市役所シティブロモーション課へ(1回で2人まで申込可)  
 問合せ／シティブロモーション課  
 ☎55-2958 ☎51-1456  
 ✉so-citypro@div.city.fuji.shizuoka.jp

## 富士山かぐや姫ミュージアムテーマ展 「富士のふもとのかまくら時代」 ～源平合戦などの史跡紹介します～

と き／3月13日(日)まで 9:00～16:30  
 (休館日：月曜日、祝日の翌日)

問合せ／富士山かぐや姫ミュージアム  
 ☎21-3380 ☎21-3398  
 ✉museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

### もっと楽しむなら、 富士山かぐや姫ミュージアムへ！

現在開催中のテーマ展では、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関連した鎌倉時代の富士市の歴史や、ゆかりの地などを紹介しています。ぜひ足を運んでみてください！

テーマ展オリジナルの「史跡・伝説あれこれマップ」も必見です！

詳しくはこちら▶



富士山かぐや姫ミュージアム  
佐野あきさ 調査員

市内50か所以上の  
史跡を掲載！



1 曾我寺 (久沢229)

正式名は鷹岳山福泉寺。兄弟の墓がある寺として、曾我寺と呼ばれる。境内には、兄弟の墓や兄弟像がある。本堂には、兄弟の坐像と位牌、兄弟が使ったとされる道具など、ゆかりの品が多く伝来する。



2 曾我八幡宮 (厚原896)

兄弟の仇討ちに感心した頼朝が、家臣に命じて建てたと伝わる。その後神社は焼けたが、江戸時代に入り再建され、現在地に移された。兄弟の立像や絵馬など、ゆかりの品が多く伝来し、境内には、幼い兄弟像が建つ。

### 鷹岡地区に伝わる「曾我兄弟武者行列」

鷹岡地区では、平成18年まで曾我まつりが開催され、祭りの中で曾我兄弟の武者行列が行われていました。一度は途絶えたものの、平成29年の鷹岡地区さくらまつりで復活し、現在は地区の小・中学生たちが武者などに扮して行列を行います。  
 ※令和2・3年は中止。

曾我兄弟800年祭の様子▶  
 (曾我寺 1992年5月撮影)



3 物見堂 (岩淵1135-1付近)

光栄寺付近の地名で平家方が物見(見張り)をしたと言われている所。また、富士川SA付近にあった山王社は、平家の案内役、斎藤実盛の陣屋跡と伝わる。現在は妙見神社(岩淵1575-2)に遷座されている。



4 横割八幡宮 (横割2-3-35)

頼朝が平家追討を祈り、弓、矢、新馬を奉納したという。ゆかりの品として矢じりが伝来している。



5 平家越 (今泉 平家越橋)

水鳥の飛び立った音に驚き、平家軍が敗走した場所。現在石碑がある場所付近には、かつて「平家越」「陣所田」「鴨田」という地名があった。

道の駅  
富士川楽座  
富士川SA

3

富士川駅

※このマップは、富士山かぐや姫ミュージアム制作「史跡・伝説あれこれマップ」から